

本校の生徒指導目標（校長の方針）

集団の一員としての実践力の育成

- ・支持的雰囲気や学級づくりの実践と修正
- ・道徳教育の充実による自己の生き方を育む道徳性の深化
- ・異学年グループでのふれあい活動を通してのなかまづくり
- ・規範意識等の定着に向け、一貫性実効性のある組織としての指導体制

共通理解

○道徳の指導内容の重点化の協議・計画

- ・香川大学教授による講話を踏まえ、全職員で学校課題から重点化するべき価値項目の協議。
- ・道徳教育の全体計画及び教科・特別活動等との関連を明示した各学年の年間学習指導計画。

○現職教育研修とタイアップした協議

- 「道徳教育の充実」を研究の柱とし、授業研究を通して、その具現化を図る。
- ・実践3部会・学年団での協議による、研究の具現化。

実態把握

○点検項目を用いた教職員の自己評価

- ・「問題行動の未然防止に向けた点検項目（香川県）」について全教職員が評価。
- ・課題項目の洗い出しと実践。
- ・7・12月の自己評価での達成状況等の把握。

○質問紙調査による児童理解

- ・「いじめ・学校生活に関するアンケート」を6・12月に実施し、人間関係の実態把握。（緊急性の高い内容は迅速に対応。）
- ・生徒指導委員会において、学校全体に関わる課題の考察。
- ・2回目には、合わせて「道徳性に関するアンケート」を行い児童の意識の変容について検証。

検証改善プラン

① 共感的に受け止め

チアフルな教師

笑顔をやさしく、喜んで子どもによりそって

② チームの力で

パワフルな教師

子どものために一人一人が全力で、力を合わせることで大きな力に

③ 毅然と粘り強く

ハートフルな教師

子どもの気持ちに敏感で、やさしさと厳しさをもって

「道徳の時間」の授業改善を中心に

教育活動プラン

活躍できる

- 一人一人の学びが確認できる道徳ノート
- ・一人一人の学びの過程とその蓄積が残るノート指導。
- ・自分の考えに自信をもって交流できるノート活用。（教師や保護者のコメントやメッセージ）

かかわり方を身に付ける

- 話し合い活動の調整力の育成
- ・多様な意見を調整し、折り合いをつける力の育成。
- 異学年集団のふれあい活動の充実
- ・特別活動との関連を図った主題構想。

主体的に生活をつくる

- 指導過程の工夫
- ・「道徳的価値を理解する」「自分とのかかわりを考える」「自分自身を振り返り、道徳的価値を自分なりに発展させる」子どもの姿が見える、子ども主体の学習指導過程の工夫。

安心して自分を表現できる

- 表現の場や方法の工夫
- ・役割表現等の具体的な場面を通じた表現活動の生かし方。
- ・自分の考えを表現する教具の工夫。
- ・書く活動や話し合う活動など自己の心情・判断等を表現する場の充実。

人とつながる喜びを味わう

- 伝え合う力の育成
- ・友達と分かり合える楽しさやうれしさを実感できる、確かな力の育成と相互交流の工夫。
- 体験活動の充実
- ・学校行事や児童会活動、総合的な学習の時間や生活科等における道徳性育成に資する体験活動の推進。

自分を見つめ生き方を考える

- 主題構想の工夫
- ・道徳的価値の自覚を深める学習過程の重視。
- ・教育活動全体（日常生活における自分の経験や外部人材の活用など）との関連を図った道徳の指導。
- ・家庭との連携。

「生徒指導の3機能」の視点から、学校生活における子どものかかわりを見つめ、よりよい教育活動を創造します

生徒指導担当教員を中心に、様々な役割を担う者が連携・協力して取り組める生徒指導体制を構築します

生徒指導をコーディネートする

○生徒指導委員会の開催

生徒指導主事を中心とし、重点項目について毎月の指導内容を提案、月当番活動で成果と課題を評価しながら、実践する。また、生徒指導に関する情報交換、指導体制の協議のため、月1回生徒指導委員会を開催する。メンバーは、生徒指導主事、管理職、生徒指導部員とし、各学年団1名必ず出席。

上記の教育活動を推進する

○道徳教育推進チームの編成

管理職、教務主任、現教主任、道徳教育推進教員、生徒指導主事による道徳教育推進チームを編成し、研究の基本方針や研究の具現化に向けたプランを策定する。

○現職教育3部会との関連

研究・研修の実践化に向けて実践3部会において共通理解を図り、学年の縦横の連携を図りながら研究を深める。

個別のサポートをする

○援助検討委員会とサポートチーム

生徒指導委員会であがった事例で、チーム援助が必要な場合援助検討委員会を開催し、管理職、生徒指導主事、特別支援教育コーディネーター、スクールカウンセラー、支援員、サポーターによるサポートチームで迅速に対応する。

○教育相談活動

第1・第3水曜日の放課後（主として担任）及び月1回のスクールカウンセラーの活用を希望に応じて個別に対応する。

指導体制プラン

学校教育目標

自ら学び 心豊かで たくましい子どもの育成  
～思いを伝え 進んでじっこうできる 北部っ子～

道徳の授業

道徳教育目標

生徒指導

- ① 自らを律しつつ自他のかかわりをよく考えて行動できる子を育てる。
- ② 友達の気持ちや立場を理解し、協調してともに高め合おうとする子を育てる。
- ③ 生命を尊重し、美しいものや崇高なものに素直に感動する子を育てる。
- ④ 約束やきまりを守り、みんなのために進んで行動する子を育てる。

教職員の資質能力の向上

研修内容の充実

- 専門的立場からの指導を受ける場の設定  
大学、教育委員会、関係機関等
- 校内研修会の事前研の持ち方の工夫  
教師一人一人が課題をもって主体的に参加  
資料分析力、子どもを観る力等の向上

学び合う研修

組織的・機能的な協働体制

- 校長のリーダーシップ  
基本的な方針を明示
- 道徳教育推進チームの編成
- 現職教育とのタイアップ  
「道徳教育の充実」を研究の柱とし、実践3  
部会や学年団での協議により、授業研究を通  
して、その具現化を図る。

学び合う組織

理論の実践化

- 低・中・高学年の校内研究会（3回）
- 実践報告会（夏休み、冬休みの2回）

研究の中核

道徳教育推進チームの編成

管理職、教務主任、現教主任、道徳教育推進  
教員、生徒指導主事による道徳教育推進チ  
ームを編成し、研究の基本方針や研究の具現化  
に向けたプランを策定する。

教師の姿が  
子どもの姿に

「道徳の時間」の授業改善

主題構想の工夫

- …学年別年間学習指導計画に位置づけ
- 総合単元的学習…教育活動全体（日常生活における自  
分の経験や外部人材の活用など）と  
の関連を図った道徳の指導
- 繰り返し主題学習…規範意識、礼儀等の定着
- 価値追求学習

ねらいの明確化

- 児童の実態、地域環境、保護者の願い、学校課題、教  
師の願い、指導内容（指導要領）からねらいを設定

指導法の工夫

- 指導過程…学習内容と授業の展開を構想する。（1時  
間の授業の中で期待する子どもの姿）
- 発問構成…子どもの思考や交流を深める重要な鍵（中  
心発問と前後の発問）
- 資料提示の仕方…学年・内容によって演出の工夫
- 言語活動の工夫…話し合い活動・書く活動（道徳ノ  
ートやワークシート）等
- 表現活動の工夫…気持ちカード・心情カード・役割表  
現・ペープサート等
- 板書の工夫…考えや感じ方の違いや多様さを対比的  
に表す、構造化された板書

家庭との連携

- 研究授業への参観・授業参観での参加型授業
- 学びの共有化…団便り（道徳コーナー）・道徳ノート

<認め合い 支え合う なかまづくりを視点とした学級経営>  
～自分が好き 北部っ子のなかまが好き 学校が好き～

学校の取組の発信

- 月1回の団便りのお知らせ  
「道徳コーナー」として道徳の時間の  
学習について、具体的な実践資料を掲  
載するなどして知らせる。
- 道徳ノートの持ち帰り  
保護者のコメントもらう。
- 教室環境の整備  
「道徳コーナー」として「道徳の時間」  
の学習の足跡を掲示する。
- 授業参観での授業公開

協働で育てる

- 保護者等の授業への参加
  - ・直接的な参加…参加型授業
  - ・間接的な参加…資料の提供（手紙等）  
授業終末部の関わり
- 情報交換
- 子どもの道徳性に関するアンケート調  
査

子どもの育つ場は、学校と家  
庭（地域）の両面にある。家  
庭との連携は実践力として生  
きる場の充実につながる。

家庭との連携

学校と家庭との信頼関係